

地域貢献活動支援事業学生の取組(8団体) 詳細版

看護学科いのちの授業グループ

いのちの授業訪問事業

【課題認識】

医学・看護学の観点から、命の大切さを教えて欲しいという小学校・地域からの要望に応えると同時に、日頃地域の人々との交流が不足している私たち学生にとって、子どもや学校の先生と触れ合うことは、将来医療従事者となる上で、自分自身の成長に繋がると考える。

『いのちの授業』とは

横浜市内の小学校に出向いて看護学生が行う訪問授業

- ・小学生:
『いのちが生まれることのすばらしさ』
- ・医学生、看護学生:
『医療従事者を目指す者としての学び』



【具体的な取組】

「命の大切さ」を小学生に感じ取ってもらうために、看護学科生が、生命誕生までのプロセスを教える授業を行います。

YDC

医学生が創る『医療』教育

【課題認識】

医療崩壊の現状は、極めて深刻な状態にある。医療崩壊を加速させている原因は、「医療を提供する医療者や病院の数」と、「医療を享受する患者の数」の不均衡、つまり、「供給」と「需要」のアンバランスにあると考えられる。

患者さんと協力して創る医療

医療を知っている世代の誕生

正しい医療像がわかる

日本の医療環境の充実



【具体的な取組】将来の医療の適正利用を広めるため、医学生という立場から、横浜市域内の小学生に対して医療の仕組みを教えるモデル授業を行います。

鈴木ゼミ震災復興支援チーム

震災復興に関わる企画展及びセミナーの開催

【課題認識】

東日本大震災から1年以上が経過し、マスコミによる報道や現地に赴くボランティアの数も減少している。このことから、普段横浜に生活しながら入手できる被災地の情報は減っている状況である。

事業目的・目標

- ・被災地の被災状況を視覚的に伝える
- ・震災から1年が経過した現地の復興の進捗状況を伝える
- ・復興まちづくりにおける住民参加型まちづくりの事例紹介

2012/8/6

11



【具体的な取組】被災地の被災状況について、模型を用いながら視覚的に伝えていく。また、復興に向けて活動する人々を横浜に招き、震災から1年過ぎた後の現状とこれまでの過程を伝えていく。

KEEP (Kihara "Education of Eating" Project)

「食」から見える世界

【課題認識】

近年は、コンビニエンスストアやファストフードの成長に伴い、利便性が向上し、食事に対するスタイルが多様化している。その中で、「食べること」がいかに大切なのかを考える機会はほとんどなくなってきている。

KEEPが本事業を行う意義

- ・学生目線によるわかりやすい説明・・・面白く、興味をもってもらおう
- ・年齢が近いことによる親しみやすさ・・・質問がしやすい
- ・参加学生のバラエティある専門性を生かした調べ学習の企画
ゲノムシステム科学専攻、環境生命コース、ヨコハマ起業戦略コース、理学系、経営科学系、国際教養学系、看護学科
- 例えば・・・「小麦の進化」「小麦と経済」
「小麦と文明の誕生」「小麦と健康」など



【具体的な取組】舞岡小学校5年生に対し、体験学習や調べ学習を行う。また、年度末に「コムギフェスティバル2013」を実施し、本取組について周知を図る。

金沢研究会

学生が考え、活動する個性豊かなまち金沢区を目指す、研究・提案・行動 活動

【課題認識】

金沢区は、大学・自然・歴史・観光と、他の区と比べても多くの資産を有しているが、その豊富な資産をどう生かすかが課題である。また、大学が2つあるという金沢区ならではの長を生かした、“学生街”としてのアイデンティティを創出する必要がある。

金沢研究会 平成24年度の活動

金沢区を対象とした研究、まちづくり活動

- ▶ 他の事例研究を交えながら金沢区を対象に研究活動
- ▶ 地域の問題点等現状を認識し、解決策などを提案し実践
- ▶ 地域の方とも積極的に交流・協力して共に金沢区の新たな魅力を創り出す
- ▶ 今年度は金沢八景駅前地区だけでなく観光的地区、住宅地等個別地区でも研究・提案

研究

提案

行動

▶ 2

【具体的な取組】

金沢区を対象地区として研究し、参考とすべき学生生活の活発な都市・大学の試みの研究等も交える。



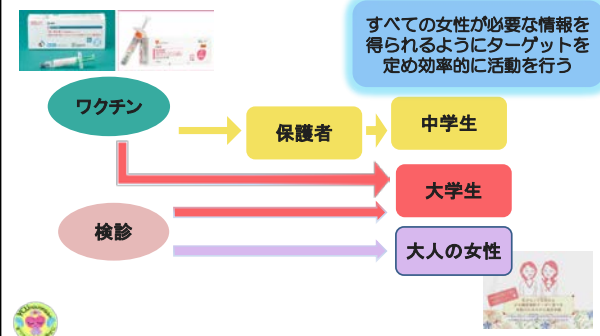
看護学科子宮頸がん啓発グループ

子宮頸がん予防啓発のための出前授業

【課題認識】

子宮頸がんの予防ワクチンが任意にて実施され、今後は定期接種の動きもあることから、「子宮頸がん」という疾患、その予防ワクチンの意義、また検診の意義を正しく理解することが必要である。

今年度の活動の枠組



【具体的な取組】

学生及び保護者に、子宮頸がんは予防できるがんであることを理解してもらい、ワクチンや検診の大切さ、自分の大切な人の健康を考えることの意義を、大学生が等身大で伝える。



ヨコハマ起業戦略コース・三輪ゼミ

保育所×地域-つながりカアップ・ワークショッププロジェクト

【課題認識】

近年、保育施設の待機児童数の増加や、社会の保育ニーズの多様化を受けて、園庭を持たない保育園が増加している。また、多くの保育施設は、地域に頻繁に出る機会があるにも関わらず、地域の人との交流がほとんどないことがゼミ活動を通して明らかになった。

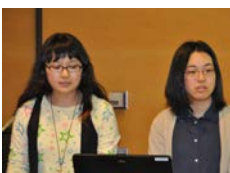
プロジェクトを行う背景

- ・ 2011. 3. 11以降
保育施設にとって、災害時における地域との連携は必須である。
- ・ 保育施設側はどのように地域の人とつながりをつくれればいいのか分からない。

保育施設と地域をつなげるしくみが必要。



【具体的な取組】保育施設関係者と地域住民・保護者・子どもと一緒にまちあるきやマップづくりをするワークショップを実施することで、それぞれが把握している地域資源の情報を共有し、つながりを強めていく。



ヨコハマ起業戦略コース・鈴木ゼミ

安全安心のまちを目指す地域コミュニティ再生支援事業

【課題認識】

黄金町地区は、かつて、違法飲食店が集中し、生活環境の悪化が問題となっていた。05年に実施されたバイバイ作戦によって、こうした売春行為を行う飲食店は閉鎖されたが、一方で大量の空店舗を抱え、この店舗の再利用と売春のまちに戻らないための地域コミュニティの再生が課題である。

本年度のテーマ

● 「住民が輝くまち」

- 主役はあくまで住民で、学生は住民が気付かないことに気づき、**学生だからこそできること**を中心に活動を展開する
- 今年度は主に**防犯**を中心に安全・安心のまちづくりを目指す
- 先週10日に行われた第7回隣人祭りでは防犯についての劇と防犯WSを行った



【具体的な取組】こども110番ステッカー作成し、黄金町バザール期間にこれと関連させたワークショップを開催する。また、110番ステッカーを紹介するためのステッカー改定版あんあんマップを制作する。

